



第139号

平成29年10月1日発行
発行所
長崎大学玉園同窓会
〒850-0029
長崎市八百屋町36番地
☎095-824-5494
発行人
山崎 滋 夫
(株) 昭 和 堂

千の子供に千の花

青雲高・中学校長 玉園同窓会理事

中 嶋 将 晴



人は、さまざまな出会いを重ね、その別れを惜しみつつ人生という旅を続けます。私は、教師という仕事に携わってきたから、幾たびも若者に出会い、幾たびもの別れを繰り返してきました。その邂逅と別離が私の人生の大事な部分を熟成してきたように思います。

以前、ある公立高校に勤務していたときのことです。1月のある日、帰ろうと思つて、下駄箱を開けたら、一通の手紙が入っていました。「校

長先生へ」と表書きされており、裏にも名前はありません。急いで校長室に戻つて開いてみたら、「校長先生に手紙を書くのは初めてですが、勇気をもって書かせていただきました。私は毎日苦しんでいます。やつてもやつても勉強がだめなんです。夜になると眠れないので、先生のところに行つて、相談したかったのですが意志が弱いので、何もできないのです、何か話を聞きたいのですが」と書いてありました。

しかし、名前が書いてないから、返事の書きようがありません。この手紙のことが頭から離れず、私の胸につかえていたので、その後、全校集会の最後に話をしました。「私は先月、本校の生徒と思われる一人から手紙をもらったが、名前が書いてない。苦しいばかりの高校生活だと書いてある。でも、返事のしようがないじゃないか。そして、ほくは、ダメな人間だと書いてある。おそろくこの中の誰かだと思う。僕はもうダメだと言っているが、この世に生まれきてダメなことがあるだろうか。ダメだと言つたら、本当に自分をダメにしてしまう。自分らしさを失う。ダメだということはないから、どうか元気をだしてほしいとしかいいようがない。」そう言つて、話を終わりました。その年の3月、私は転勤することになり、その学校を去りました。

数か月経つて、私の家に一通の手紙が届きました。あて先の字を見たら見覚えのある字でした。そしてまた、名前がないのです。「先生が転勤されるとは、思つてもいけませんでした。先生は全校集会で、僕のことを話されました。僕はあの時、必死で涙をこらえていました。しかし、勇気がでてきました。だから、一生懸命やってみました。けれども、やつてもやつてもだめなんです。僕はやはりダメな人間ではないかと思いません。しかし、集会で、話された先生の言葉を感じたのです。だから僕は、自分を探します。今、自分がどちらの方向に行くべきか分かつてきたので、そちらの方向に進みます。そちらに向かって後ろを見ず、まっすぐに進みます。その目標に達したときには先生に報告に行きます」と書いてあったのです。

それを読んだ時、私は胸が熱くなり、涙が溢れそうになりました。心の中で、頑張れ頑張れと言いつつ、年が経つていつたのですが、ある日、私の職場に、お母さんと一緒にやつてきました。その顔は私の記憶にも残っている顔でした。「校長先生」と言つた時、「おめでどう、君が匿名君だったのか」私はこう言つて、握手を交わしたのでした。

人間は、一人ひとり誰とも代わることの出来ない存在です。人間の尊厳も、人間のおぞましきや悲しみもそこに根ざしています。私たち一人ひとりの存在の有りようは、他の何者とも代わることは出来ません。人は、自分の存在を自分の責任において背負い、その生を選択して生きて行かなければなりません。千の子供に千の花、かけがえのない命への願いを込め、日々の教育の営みはあるのだと思います。

特色ある学校

感性を育てる俳句創作・鑑賞活動



長崎市立西北小学校教頭 前田 俊 児

本校は、校訓「美しい学校」の下、自ら向上心を持ち、礼儀正しく、心

優しい感性豊かな児童の育成を図ることを教育目標に掲げ、教育活動を行っています。その具現化に大きく関わる活動に本校の特色とも言える俳句創作・鑑賞活動があります。本校が俳句創作・鑑賞活動に取り組み始めて今年で十三年目となります。豊かな感性と言語感覚を養い、自他のよさを認め合うことを目的とし、毎週月曜日の朝の時間に取り組んでいます。本校の具体的な取組を御紹介します。

三週一サイクルの創作活動

一週目は個人創作の時間です。子供たちは、日々の気付きや発見を書

いた俳句ノートを参考に、季語を入れて俳句を作ります。自分が感じたことを簡単な文章にし、そこからどうしても残しておきたいことを中心にし、あとは省いていきます。学年に応じて、「季重なり」「切れ字」についても指導します。

二週目は推敲の時間です。「直接的な気持ちの表現をしていないか」「読む人が情景を思い浮かべられるか」「ただの説明になっていないか」を子供たちに考えさせます。時には、五七五の三句の順番を入れ替えてみるなど、表現方法を工夫させます。

三週目は学級選句の時間です。児童が作った句をランダムに並べ、その中から各自三句ほど選ばせます。感想を交流させながら得票を集計し、上位句を選びます。また、教師もいくつかの句を選びます。選ぶ視点として、発見(新しい気付き)、共感(情景や思い)、言葉(その子なりの表現)について指導します。

全校句会

各学期一回、各学年の代表一句(全六句)の中から一番の句を決めます。全校児童の感想を交流させながら、得票を集計し、「西北俳句大賞」「先生特別賞」を決めます。以前は、「全校俳句鑑賞会」という名称で、代表句についての感想を交流させるころまででしたが、そこから一歩進めて、一番を決める「全校句会」へと数年前から形を変えて実施しています。全校句会へ形を変えたことで、児童の創作意欲が高まりました。また、感想交流がより活発になり、教育効果が高まったと感じています。今年も、土曜授業公開日に全校句会を保護者や地域の方へ公開しました。参観した方から、「子供たちの感性が素晴らしい」「大人が気付かない発見が面白い」との感想をいただき、本校の俳句創作・鑑賞活動への関心の高さがうかがえました。

そのほか、本校では、「季節ごとの季語だより(指導用)」「俳句ノート」「学級俳句だより」「各種俳句大会への応募」「児童俳句集そよ風の発行」を行っています。俳句主任が中心となって企画し、低中高で分担して全校句会を運営するなど、全職員が一致協力して活動を進めています。



また、夏季休業中に招聘講師による職員研修を実施し、職員の俳句に対する技能の向上を図っています。本校では、各種行事の後、高学年児童が挨拶する際に、会を総括する一句を盛り込むことが伝統となっています。毎回、担当児童が詠む句に、職員一同、感心すると同時に俳句創作・鑑賞活動の確かな教育効果を感じています。今年の運動会では、閉会挨拶で私も一句したためていましたが、その前の児童代表挨拶の一句が素晴らしく、披露することを控えてしまいました。

今後の展望として、俳句創作・鑑賞活動を教育課程へ位置付け、活動時間を確保することや、保護者の俳句を募集するなど、家庭と学校が一体となった活動へと転換を図ること

を考えています。本校の俳句創作・鑑賞活動は、教育目標の具現化への

一番の近道と捉え、今後実践を続けていきます。

国際色豊かな学校



長崎市立朝日小学校長 松尾 正

をスローガンに掲げ、「英語に親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」を目指し、英語活動に取り組みはじめて本年度で8年目を迎える。

(一) 英語を学ぶ

少子高齢化や人口減少に伴う社会全体の大きな変化により、子どもたちは、近い将来、身近に外国人と接しながら生活していくことが予測されている。

① 高学年は、担任がT1となり、E E I（小学校英語インストラクター）やA L Tによる授業を、1年生から4年生は、担任とA L Tによる授業を実施。

② 全学年各学級で、毎週15分間のA E タイム（あさひイングリッシュタイム）を日課に位置付けて実施。

このような新しい時代の要請を受け、2020年度から小学校で全面実施される次期学習指導要領では、小学5・6年生で教科としての英語が新設され、小学3・4年生から「聞く・話す」を中心とした外国語活動が導入されるなど、英語教育が本格的に始まる。

③ 月1回程度の外国語集会。英語に親しみ英語で話す時間。集会の進行等も英語を使って高学年児童が進めている。

一 具体的な取り組み
本校は、「国際人育成の朝日小」

このように、外国語活動の時間と短時間の授業を組み合わせ、学びの質を上げていくことに努

力している。

(二) 交流を通して学ぶ

本年度は、6月に6名（イギリス・カナダ・ニュージーランド・オーストラリア）のA L Tを迎えて「国際交流会」を実施。

全校での交流と学級での交流（給食時間や昼休み時間を含む）を通して、他国や異文化に対する興味をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の生き生きとした姿が見られた。

また、6年生は、校外学習で出島等に出かけたとき、出会った外国人観光客に英語でインタビューする試みをおこなっている。英語圏だけでなく、中国からお客様をお招きして交流を深めている。他国の方々とふれあう機会を通して、活動する安心感や楽しさが育っている。

(三) 英語学習の環境を整える
英語の歌が流れる中を児童は登校してくる。玄関のボードには、英語で月日、曜日、天気が表示され、教室までの階段には、よく使う英単語がイラストと共に掲示してある。

また、各教室の表示は英語表記がなされ、校内の英語掲示は、季節や学校行事等に合わせ、計画的に本校職員が交代で行っている。子どもたちが英語のつづりに馴染むように、特別な場合を除き、英語にフリガナは付けていない。児童は、A L T作成の掲示物やグッズの要素を取り入れた掲示に、興味をもって見入っている。

この他にも、英語放送やA L Tによる本の読み語りなどがある。

二 英語活動で目ざすもの

本校では、児童の実態や特性をよく知る学級担任がT1となり、E E IやA L Tのよさを生かしながらチームで授業を行っている。本校に赴任して初めてT1を担当する者も少なくないが、可能な限り英語を使いながら授業を進めている。

活動案は、担任が主となり作成し、A L T等と事前打ち合わせをし、授業に臨んでいる。二人の先生が、設定場面を英語で役割演技。児童は「推測」しながら聞き、分かるところから意味を理解しようとする。担任は、児童のいい気付きを取り上げてほめたり、「A L Tの先生の口元を見て」などと指示したりする。活動する「安心感・楽しさ」を中核に置いた授業は、英語の音声に親しみ、失敗を恐

れず表現しようとする姿を作り出している。
 今後も、授業を中核にしなが、児童が自分の「ふるさと」のよさに気付き、英語というツールを使つて

相手の文化を知り、笑顔やアイコンタクト等を交えた言葉でつながる力をさらに伸ばしていく英語活動に全員で取り組んでいきたい。

遠隔授業への取り組み

長崎市立梅香崎中学校教頭 大林 英夫



一 本校の概要

本校は長崎市中心部の南部に位置し、「オランダ坂」「孔子廟」「大浦天主堂」「グラバー園」など文化遺産に囲まれ、古くから外国の文化が入り発展してきた地域にある。近くにある松が枝埠頭に毎日のように外国船も停泊し、海外に向けての窓口になっている。このような地域のため、ホテルや土産物店なども多く、国内外からの観光客も訪れる地域である。また、活水大学や海星高校などの文教施設もある。本校の創立は

昭和22年で、70年の歴史がある。校区は南は東琴平、北は大浦町、29町からなり、生徒は大浦小学校からの入学がほとんどであるが、指定学校変更による仁田佐古小学校からの入学もある。現在は11学級、235名の生徒数の中規模校である。

二 研究の基本方針

本校の教育目標は、「21世紀の平和な国際社会の形成者として、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間を育てる」であり、師弟同行に基づき、「わかる授業の展開(確かな学力の向上)」を経営方針に掲げている。さらに、生徒が学び合い、高め合う集団となることを目指して、平成27年度からTV会議システムを利用した高島中学校との遠隔授業を進

めてきた。1年目は高島中学校の生徒との意見交換を通して、互いに考えを聴き合う楽しさを知った。2年目は主として数学科と道徳で遠隔授業を行い、話し合い、学び合い活動を設定した。この学習を通して多様な考えを知り、それを参考に自分の考えを深める経験を積むことができた。また遠隔授業以外にもタブレットなどのICT機器を活用した授業づくりの研究を行った。

今年度は遠隔授業の中で、タブレットなどのICT機器を活用しながら、コミュニケーション能力を高め、思考力や表現力を培っていく。職員全員が遠隔授業やタブレット学習で共通実践ができ、分析・考察を積み重ねていくことが、本校の教育目標につながるものと考え、研究主題を『確かな学力を身につけ、共に学び、高め合う生徒の育成』と効果的なICTの活用と遠隔授業を通してと設定した。

本校では次の3点を研究主題に迫るための研究の視点とした。

- (一) 高島中学校との数学科、道徳を中心に遠隔授業を行い、話し合い活動に重点を置いてコミュニケーション能力を育成する。
- (二) 遠隔授業や各教科の普段の授

業のカリキュラムにタブレットなどを活用した授業を設定し、実践・分析することでICT機器の効果的な活用方法を探る。

(三) ICT機器の取り扱いや効果的な活用方法を含む授業規律の確立を目指す。

また、本校の研究組織として校長を委員長とする研究推進委員会を設定し、研究の企画・運営を行い、その下部組織として「遠隔授業班」、「ICT授業班」、「授業規律班」という三つの組織を立ち上げて本校の教職員がいずれかの研究班に所属して校内研修での別班研修を行っている。

昨年度生徒に行った遠隔授業のアンケートの設問「合同授業で、他の学校の友達と一緒に勉強してみても、学校の友達と一緒に勉強してみても、どちらが良かったですか。」という設問に対して「他の学校の友達の考えが参考になった。」「自分の意見をしっかりとまとめて大きな声で発表することができた。」等遠隔授業に対する意欲的な回答が数多く見られ、手応えを感じている。現在は11月20日に予定している高島中学校と本校の遠隔交流学習の公開授業に向けて日々研鑽を積んでいるところである。

わたしの教育実践

私のルーティン

長崎市立西坂小学校 松尾 明



「おはよう 昨日の算数では…」
教師になって18年。学校運営の一

翼を担うべき「ミドルリーダー」、「中堅教諭」と呼ばれる世代になった私が唯一続けていることがある。それは、一日の最後に、子供たちへ「おはよう」で始まるメッセージを黒板に書いて帰宅することだ。

当初書いていたメッセージは、次の日の連絡事項が多かった。しかし、いつの日からか、その日の出来事や思い、感じたことを書くようになって。そうすると、書く前に今日一日をふり返るようになる。「あの発問は良かったのか。」「あの子への声掛けは正しかったか。」など。授業のこと、指導の仕方を思い返す時間。

たとえば、目の前に子供たちがいなくても、私にとってそれは、子供たちと向き合う貴重な時間なのだ。そして、子供たちへ向けて様々なメッセージを黒板に綴る。楽しかったこと、賞賛の言葉、時には厳しい言葉も。綴り終えたとき、私の一日が無事に終わり、明日を楽しみに帰途につくことになる。

子供たち全員が読んでいるわけではないであろうが、子供たちの中には、私からのメッセージを受け止めて自分なりに考えて行動する姿が見られていく。少しずつでも構わない。そう思いながら私は毎日続けてきた。今ではそれが私の習慣、「私のルーティン」となっている。

私が続けているこの取り組みは、些細なことだと思う。しかし、この積み重ねが子供と私の距離を縮め、信頼関係を築く一役を担っていると信じている。

さあ、今日も「私のルーティン」を行って帰宅しよう。

研究主任として



大村市立桜が原中学校 田下 寛正

生徒数が約250倍に増加。この春、前任の松浦市立青島中学校から大村市立桜が原中学校に異動し、私の環境は大きく変化しました。前任校と違い、時間があつという間に流れていきます。やらなければならぬ業務が次々に沸いてきて、のんびりと海に沈む夕日を眺めている余裕がありません。また、生徒の名前を覚えるのも一苦労です。名前だけでなく、生徒一人一人の性格も理解しなければなりません。しかし、大人数だからこそ、さまざまな考えや思いにふれられるよさを、改めて実感することもできました。

校務分掌では、研究主任として、校内研究の推進を図るため、研究の方向性や手だてを先生方に提案しています。本校では、昨年度より大村

市教育委員会の研究指定を受け、「思

考力」をテーマに、生徒の思考力を高めるための授業実践及び授業研究を進めています。しかし、本研究を進めるにあたって大きな課題がありました。それは「思考力」そのものです。私たち教師は、「思考力・判断力・表現力」の言葉はよく見聞きしますが、生徒に求める思考「考える」を、漠然としかとらえていませんでした。そこで、『思考スキル』を軸に研究を進めることにしました。『思考スキル』とは、「考える」を「比較する」や「関連づける」などの具体的な言葉に置き換えたものです。この『思考スキル』を用いることで、生徒の学習活動が具体的にになり、そのための教師の支援もより明確になると考えました。『思考スキル』を用いた授業実践は始まったばかりですが、教科間の垣根を越え、全職員で授業について語り合い、生徒の思考力を高めていきたいと考えています。

おたっぴやだより

波乱万丈、人類共生を願う

大阪府寝屋川市 鶴丸 春吉
(昭和48年3月卒)



1968年入学の想い出、「美しき五月のパリ」の曲、東大の無給研修医や日大の使途不明金問題。長大でも、医学部2年留年退学制、学生会館の大学管理支配に反対し自主管理したが、69年に機動隊が解除、教養部は2月からバリケードストライキに入るが、9月に機動隊に解除された。

私の家は代々三菱造船所勤務だったので、技術学校に入ったが、24の瞳のような小学校の担任の先生に憧れて、定時制高校に行った。中学から軟式テニス部だったので、教養部授業後はコートでボールが見えなくなるまで練習。集会で薬学、水産、医学部の友達ができ、大学・国家・

世界論を討論した。クラス討論で日本会議の梶島さんらの同級生は、ヤルタポツダム体制打破や皇国史観を言っていたが、戦前のような軍国主義国家になつては困ると思つた。学部で自治会委員長になり、成田空港建設反対運動に行つた時に逮捕されたが、年配の検事から、教育者になつた方がいいと言われて不起訴。

卒業後大阪箕面市の小学校教員を31年やりました。個性を伸ばす・差別しない・助け合う学級づくりが信条でした。僻地校勤務時に明治以来勤続が3・4年なのはおかしいと訴えたら、希望者が増えました。最後の勤務校では転入してきた暴れん坊と取っ組み合いや家庭訪問をした。退職後、運動会を見に行ったら、親子で、ありがとうございましたと言われてうれしかったです。

柔道整復師の免許をとりボランティアで大槌町や御船町に行きました。学生運動参加者にアジア留学生奨学基金を呼び掛けたら1800万集まり、アルバイトしながら勉学する留学生に平和の懸け橋を感じます。

郵便振替、アジア留学生奨学基金
01740・9・142565 鶴丸
TEL 090・3990・9870

わたしの学校

3つの取り組み

佐世保市立相浦西小学校6年
アイドウン麗花エッジ

今わたしたちは3つの取り組みを行っています。

1つ目は「あつたか言葉」です。以前は「ちくちく言葉」が聞こえていましたが、今は学校中が「あつたか言葉」であふれています。自分がされてうれしかった事をカードに書き児童玄関の壁にはっています。そこには大きな山の絵があり、カードの花で山を花いっぱいにしようとしています。

2つ目は「ワンストップあいさつ」です。

きちんと立ち止まってするあいさつは去年の6年生が中心になって全校に広めてくれました。この伝統を守り、たくさんの人をあいさつで笑顔にしたいです。

3つ目は「名札忘れ0」を達成することです。

去年、あと1人というところまでいきましたが達成できていません。みんなで気持ちを一つにして必ず達成したいと思います。この3つの取り組みを続け、楽しい学校にしたいです。

私の生月小じまん

平戸市立生月小学校6年
福海 徳子

私が通う生月小学校、ここは全ての学年がふれ合い、親しむ学校です。生月小の1日は朝のランニングから始まります。登校した後、朝の準備をし、走りに出ます。熱心に走る人、競いながら走る人、おしゃべりをしながらワイワイ走る人、他の学年の子と走る人も多くいます。そして、この他の学年とのふれあいが生まれているのは、「縦割り班」という全学年を組み合わせた班での活動を行っているからだと思えます。1年生から6年生がいつしよにそうじや給食、遊びをするので、全学年みんなが顔見しりです。

また、楽しいばかりではなく、勉強にも熱心です。私の学年では少しむずかしい単元の学習に入るとクラスを2つに分け、より集中できる環境をつくっています。そうすることで、みんなが積極的に勉強に取り組んでいるように思えます。

私は、勉強やいろんなことに一生懸命な生月小学校が大好きです。

母校だより

藤本公昭

さらなる 教員養成改革

長崎大学教育学部長 藤本 卓



平成二十九年度がスタートいたしました。教育学部・大学院教育学研究科へ平成二十八年十月一日付、及び平成二十九年四月一日付でご着任された先生方を、お知らせいたします。なお、敬称は略させていただきます。

【ご着任】

山田真子（理科専攻）、駒津順子（家庭科教育）、久保田もか（保健体育専攻）、友永光幸（実務家教員）

以上のご着任された先生方ともども、今年度も努力する所存です。どうぞよろしくお願いたします。

現在、文部科学省が行っている教員養成に関する有識者会議（国立教

員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議）の審議まよめの動向に注目が集まっています。この会議は、少子化やグローバル化等の社会的背景をもとに、実践型教員養成へ移行が進む学部・大学院での教員養成改革に拍車をかける狙いがあるようです。平成二十八年九月から検討が開始され、平成二十九年八月に報告書が提出されるようです。

平成二十九年八月一日に開催された第十回の会議で提示された報告書（案）の概要では、機能強化のための方策として、次のようにまとめられています。

機能強化のための方策

十分な予算、優秀かつ多様な人材、一定の規模と効率性の確保による機能強化のため、

- ・ 各地域の今後の教員需要の推移等に基づく入学定員の見直し
- ・ 近隣の国公私立大学と連携した一部教科の教員養成機能の特定大学への集約
- ・ 総合大学と教員養成単科大学など、大学間で教員養成機能を統合
- ・ 附属学校の現在の規模や学校数等の検証 など

以上について、各大学が、第三期中期目標・中期計画期間中（平成三十三年度まで）に一定の結論をまとめるべき。以下、省略

最終的な報告書において、どのような記述になるのが待たれるところではあります。いざれにしても、教員養成大学・学部や教職大学院、そして附属学校園が対象になっていくことには間違いありません。本県における教員需要（公立学校教員採用数）は、大量退職を受けて、小、中、高等学校と、特別支援及び養護を併せて、平成三十九年度四百五十七名と、平成二十六年年度の二百七十七名から倍増しています。しかし、全国的にみられるこのような状況は永く続く訳では無く、県によって時期は異なりますが、やがて減少していくことが予想されます。この少子化に伴う教員需要の減少傾向と、多様な課題に直面する学校への対応を考えると、養成する教員の規模（入学定員）をはじめ、教員養成機能の集約や、大学間での教員養成機能の統合、そして附属学校園の規模等の見直しが求められることが分かります。

長崎大学教育学部・大学院教育学研究科は、新たな教員養成改革に対応していきま。今後ともご支援のほど、どうぞ、よろしくお願申し上げます。

附属校園だより

今年の研究

【幼稚園】

○ 研究主題

共感し合いながら友だちとかかわり協同して遊ぶ子どもを目指して、夢中になる姿を追って

○ 期日 29年11月11日(出)

○ 会場 長崎大学教育学部附属幼稚園

【小学校】

○ 研究主題

新たな価値を見いだす子どもの育成

○ 期日 30年2月1・2日

○ 会場 長崎大学教育学部附属小学校

【中学校】

○ 研究主題

新たな価値を見いだす子どもの育成

○ 期日 30年2月9日(金)

○ 会場 長崎大学教育学部附属中学校

【特別支援学校】

キャリアー発達を支援する系統的な指導を目指して、子どもたちの「考える」姿に着目した授業づくり

○ 期日 30年2月3日(出)

○ 会場 長崎大学教育学部附属特別支援学校

平成29年度 総会報告

日時 平成29年6月25日(日)
11時～14時

場所 長崎市立桜町小学校内(地域・学校交流センター)

出席者 顧問・参与・理事・監事・幹事・地区委員・一般会員

第1号議案(28年度の事業報告・決算の報告)

①事業報告

●平成28年4月終身会員への入会案内発送及び新入生への長崎大学において入会案内説明会の開催

●会報の発行(年2回)
会報137号(12ページ)

●会報138号(14ページ・8600部)

●主題「危険や災害から子どもを守る教育」

●執筆 深江小校長山田芳弘先生、今福小校長田島豊広先生、三川中校長森下秀男先生

●会報138号(14ページ・8600部)

●主題「異校種間の連携の在り方について」

●執筆 小ヶ倉小校長赤瀬明子先生、長与南小校長松尾克久先生、有川中校長岡村珠樹先生

●教育学部への支援

●教育公務員採用受験者への指導助言、模擬授業・面接試験の受け方指導、卒業生への玉園同窓会賞の授与・サークル活動への支援(科学・美術・音楽)

●長崎大学全学同窓会(ホームカミングデー)への参加

日時 28年6月11日(土)

14時～16時40分

場所 長崎大学中部講堂

内容 特別講演2本(日本の近代化と長崎、核廃絶への科学者の責任と市民の役割)、各サークル活動の発表

●図書費購入助成事業(1校につき10万円前後)実績(小学校3校、中学校1校、高校1校)各校の図書贈呈式への出席

●平成28年度玉園同窓会地区懇話会の実施

日時 場所 11月19日(土) 稲佐山観光ホテル

●出席者 25名(宮下茂 教育学部副学部長 他会員及び事務局員)

●世話人 青嶋秋男 長崎地区長鳴見台小学校校長

●森下秀男 長崎地区委員 三川中学校長

●内容 研究発表 琴海中校長 川本哲也先生(健やかな心の育成を目指した連携の在り方)

●懇話会

●長崎大学原爆慰霊祭への参加・献花(8月9日) 於いて・長崎大学内

●公益目的事業実施団体への活動費助成事業

●第2号議案(平成29年度事業計画と予算案の審議)

●理事会交流会、総会交流会(6月)、専門部会(随時)、会員の確保

●会報の発行(139号、140号)

●地区懇話会の開催 開催地区(西彼支部) 日時 30年1月27日(土)

●場所 ロイヤルチェスターホテル(長崎市赤迫区856-11101)

●教育学部との事業連携

●各地区活動への支援(助成金)

●一般社団法人としての、公益事業の拡大・強化
(図書購入費助成、青少年健全育成事業費助成、教職希望学生等支援事業)

●第3号議案(会費の改定・準会員) 3000円を5000円に(学部と協議のうえ)

●収支計算書及び収支予算書は、次ページに掲載

公益目的事業

児童・青少年健全育成助成事業

1、目的

本事業は、長崎県内の児童および青少年の健全育成を目的として、各地域の団体等が実施する事業の経費を助成し、教育上の時代的要請に因應するとともに、教育関係者をもって構成する当法人の目的である長崎県の教育の振興に寄与しようとするものである。

2、助成の対象となる事業

長崎県内の、児童・青少年の健全育成に関わる団体等が実施する事業で、

(1) 児童および青少年が参加して行う体験活動・発表会・展示会・社会貢献等の実践活動

(2) 健全育成を目的として実施する、保護者・地域の指導者等の研修、学習活動

3、助成額

助成の金額は、1件あたり5万円を上限として、総額20万円の範囲内で、対象とする事業の必要経費の概ね1/2を限度とする。

4、募集方法

当法人のホームページや会報に、応募要項を添えて掲載し公募する。(応募する団体は事務局へ連絡して下さい。)

5、応募

助成を希望する団体は、この実施要項を了解のうえ、別に定める応募申込書に「実施計画書」を添えて提出する。

6、選考方法

学識経験者により構成された選考委員会において選考し、会長が決定する。

7、選考基準

(1) 恒常的に組織された団体等が実施するものであること。

(2) 参加する児童・青少年や保護者等の人数や範囲等が明らかなるものであること。

(3) 実施する事業の目的や場所・内容・方法等が適切であること。

(4) 助成金の使途が団体の組織運営や設備・備品の購入等に充当されるものでないこと。

(5) 事業の実施にかかる経費の概ね1/2の支出が当該団体において可能であること。

(6) 実施計画書と実施報告書の提出がなされること。
その他、事業の必要性や、継続性、事業の規模等を勘案して選考する。

平成28年度 収支計算書 (平成28年4月1日から平成29年3月31日) (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
1. 収入の部				
(1) 入会金収入	420,000	420,027	△27	3,000円×140名
(2) 会費収入	2,680,000	2,346,050	333,950	{ 1,000円×2,231名 5,000円×23名
(3) 雑収入	100	8	92	
(4) 繰入金収入	2,300,000	2,500,000	△200,000	基金会計より繰入
当期収入合計(A)	5,400,100	5,266,085	134,015	
前期繰越収支差額	484,414	484,414	0	
収入合計(B)	5,884,514	5,750,499	134,015	
2. 支出の部				
(1) 事業費	3,030,000	2,553,943	476,057	会議費・会報発行費など
(2) 管理費	2,834,514	2,897,971	△63,457	借料・光熱水費など
(3) 固定資産取得購入支出	0	0	0	
(4) 繰入金支出	20,000	20,000	0	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	5,884,514	5,471,914	412,600	
当期収支差額(A)-(C)	△484,414	△205,829	△278,585	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	278,585	△278,585	

平成29年度 一般会計収支予算書 (平成29年4月1日から平成30年3月31日) (単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 収入の部				
(1) 入会金収入	420,000	420,000	0	3,000円×200人×0.7
(2) 会費収入	2,640,000	2,680,000	△40,000	1,000円×2,800人×0.9 5,000円×30人×0.8
(3) 雑収入	50	100	△50	
(4) 繰入金収入	2,500,000	2,300,000	200,000	基金会計より繰入
当期収入合計(A)	5,560,050	5,400,100	159,950	
前期繰越収支差額	278,585	484,414	△205,829	
収入合計(B)	5,838,635	5,884,514	△45,879	
2. 支出の部				
(1) 事業費	3,026,000	3,030,000	△4,000	公益事業関係含
(2) 管理費	2,792,635	2,834,514	△41,879	借料・光熱費など
(3) 固定資料取得購入支出	0	0	0	
(4) 繰入金支出	20,000	20,000	0	退職積立金特別会計
当期支出合計(C)	5,838,635	5,884,514	△45,879	
当期収支差額(A)-(C)	278,585	484,414	△205,829	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	0	0	

動いています同窓会

平成29年度 図書購入費助成校

本年度の助成校は、長崎市立川原小学校・野母崎小学校、佐世保市立港小学校、西海市立西海東小学校、雲仙市立北串小学校、時津町立時津北小学校です。

図書贈呈式

児童図書60冊を 西海東小に寄贈

長崎大玉園同窓会

長崎大教育学部の卒業生らでつくる同大玉園同窓会は12日、西海市西海町の市立西海東小（本多ひとみ校長、159人）に児童図書60冊（10万円分）を寄贈した。玉園同窓会は、社会貢献の一環として、2012年から毎年、応募があった県内の小中高校や特別支援学校に1校当たり図書代10万

就職支援事業



開講式

円を助成している。今年も西海東小を含め6校に図書



吉田君（右）に本を手渡す山崎会長
西海市立西海東小

を寄贈。これまでに助成した学校は39校に上る。

同校で贈呈式があり、玉園同窓会の山崎滋夫会長（77）が「本をしっかりと読んで成長してほしい」とあいさつ。児童を代表し本を受け取った図書委員の吉田啓秀君（12）は「6年生はみんなで大切にしたい。ますます本を好きになると思う」とお礼を述べた。

（小槻憲吾）

平成29年7月15日 長崎新聞

教育学部原爆殉難慰霊祭



8月9日、文教キャンパスにあります「長崎大学原爆殉難慰霊碑」の前で、厳かに原爆殉難慰霊祭を執り行いました。

同窓会を代表して永嶋寛延先生から慰霊の言葉が述べられました。



「長崎大学全学同窓会」開催される 「ホームカミングデー」



平成29年6月10日(土)、長崎大学文教キャンパスにおいて開催されました。

ホームページを開設しました

本同窓会は、一般社団法人として、その活動状況や、特に公益目的事業について会員の理解をはかることはもとより、それ以外のより多くの人々に知っていただくことが必要になってまいりました。こうしたことから、このたび理事会・総会の議決を得てホームページを開設いたしました。

今後の本同窓会の運営にあたって、大いに活かし新たな同窓会活動をめざしてまいりたいと思いますので皆様のご活用をお願いいたします。

ホームページアドレス

<https://www.edu.nagasaki-u.ac.jp/ja/tamazono/>
メールアドレス nu-tamazono@mxb.cncm.ne.jp

一 事 一 務 一 局 一 よ り

地区懇話会「長崎地区・北部」で開催
本年度は西彼地区で開催することになりました。

◎期日 30年1月27日(土)

◎会場 ロイヤルチエスタターホテル

会員の皆様、御出席方よろしくお願
いします。

会費納入のお願い

今回も会費納入についてお願いいた
します。

- (1) 会費 一人年額 1,000円
 - (2) 納入期限 本年11月末日
- 尚、会費を2年間滞納した場合は、
会員名簿から削除されますので、ご承
知おきください。（会報「たまぞの」
131号参照）